一橋大学大学院　経営管理研究科　経営管理専攻　経営学修士コース
経営管理プログラム/ホスピタリティ・マネジメント・プログラム
（博士後期課程イノベーション・マネジメント・プログラム）

2027 年度　入学前推奨図書リスト

一橋大学大学院経営管理研究科
経営管理専攻　MBA 教務委員会

［ワークショップ・全般］

本多勝一『＜新版＞日本語の作文技術』朝日新聞出版（朝日文庫）

句読点の打ち方や接続詞の用法などの細かな点について詳しく説明されている著名な本です。きちんとした日本語の文章を書くスキルは自明視されているにもかかわらず、実際には基礎ができていないレポートを数多く見かけます。ワークショップでは毎回ある程度長いレポートの提出が義務づけられており、レポートでは内容や構成の不備はもちろん文法や語法の誤りについても厳しく指摘されます。細かいことで後で悩まないためにも、必ず入学前に本書を通読することによって作文技法の基本を頭に「たたきこんで」おくことをお薦めします。簡潔にして的確な文章を書く力は一生の宝となります。

苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社（＋α文庫）

本の読み方、作文の基本的な構成方法、問いのたて方など、ワークショップに限らず、入学後に課されるレポートなどを作成していく上で役立つと思われる作法や考え方が簡潔にまとめられています。学部生向けに（表向きは）平易に書かれていますが、社会科学一般における基本的な方法論をベースとして骨格となる議論が展開されており、単なるハウトゥー本ではなく、読む人によって様相を変える本です。

野矢茂樹『論理トレーニング 101 題』産業図書

われわれは難しい本を読んでいるときに、直感的に理解したつもりになっていることがありますが、それだけでは本当に読んだことにはなりません。知識を自らのものとするためには、要約という形式を使って、直感的な理解を論理化する作業が大切です。文章の構造を論理的に把握し、また実際に論理的に整合的な文章を書くためには、それなりの努力が必要です。本書は、そのようなスキルを身につけるための練習問題が満載されております。解答例もついています。紙と鉛筆を使って、練習問題に挑戦してください。

＊＊＊

会計やコーポレートファイナンスの領域では、未修者と既修者の間で理解度に大きな違いが生じがちです。これらの領域について、学んだことがない方や自信がない方は、入学前に次の書籍をよく読んで、入学後の講義に臨んで下さい。

［財務会計関連］

國貞克則『増補改訂　財務 3 表一体理解法』朝日新聞出版（朝日新書）

会計は事業の言語です。なじみのない方には非常に難しくうつることもありますが、その体系さえわかれば、理解は一気に進み、企業経営を分析・評価する上でのツールとして使いこなすことができるようになります。本書はそうした会計の体系をわかりやすく説明した良書といえます。これまで会計になじみのない方は、第 1 章から第 3 章までを繰り返し読んでいただければ、入学されてから講義にキャッチアップしやすくなるかと思います。

『大原で合格る　日商簿記 3 級』中央経済社

大手企業の多くは、入社してから数年以内に簿記 3 級を取得することを求めています。MBA コースに入学されてより高度な企業経営に関わる学問を学んでいただく以上、そうした基礎知識については、大学院入学前に修得しておいてもらいたいと考えています。

このため、財務会計の初回講義時(4/13)にガイダンスとともに、簿記 3 級レベルのミニテストを行う予定です。

これまで大学などで会計を学んでこなかった方、業務などで財務・経理に関わられてこなかった方向けに、簿記の基本的な考え方や仕訳などの手法について、オンデマンド配信での講義（3 回程度）を開催予定です。受講方法については、入試時に提出いただいた書類に記載されているメール・アドレスに 3 月初旬にご連絡いたします。

また財務会計の講義において、知識レベルを確認するため、簿記の課題を出させていただき、中間試験などで修得レベルを確認する予定です。必ずしも上記のテキストである必要はありませんが、比較的わかりやすく書いているテキストで入学前に学習をしておくことをお勧めします。

［コーポレートファイナンス関連］

中野誠・髙須悠介・調勇二・吉永裕登、『入門講義　会計＆ファイナンス』中央経済社、2025

本書では以下の構成で、一冊の中で会計・ファイナンスの理解を促進します。

第 1 部 財務諸表

第 2 部 財務諸表分析

第 3 部 企業価値評価

第 4 部 コーポレート・ファイナンス

財務諸表の基礎的な理解からスタートし（第 1 部）、財務諸表分析を学ぶことで、企業のファンダメンタルズの分析をすることが可能になります（第 2 部）。実際の企業の例を用いながら、楽しく学ぶことができるでしょう。その後、さらに応用的な企業価値評価へと進みます（第 3 部）。従来、企業価値評価に関する知識が求められるのは、証券アナリスト、証券会社の投資銀行部門などの専門職に限定されてきました。しかし近年では、事業会社勤務のビジネス・パーソンからの需要も高まっています。そのため、企業価値評価のエッセンスと具体的な手法を丁寧に解説しています。最後の第 4 部では、企業の投資意思決定、資金調達・資本構成、株主還元の意思決定など、コーポレート・ファイナンスの基礎的な理論枠組みを学びます。M&A や PBR といった最新論点についても解説します。

中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社（日経文庫）

上記の書籍を読み終えてから、読んでみてください。第Ⅳ章は少し難易度が高いかもしれないので、講義を通じて理解を深めることになるかもしれません。

以上